

# 我が国におけるウエイトリフティング競技の現状と課題についての研究

A study of our country's present situation and problems on weightlifting competition

1K04B015-5

石井 清香

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 岡田純一先生

## <本研究の動機>

私は現在、早稲田大学ウエイトリフティング部にマネージャーとして所属している。入部して活動しているうち、ウエイトリフティング界には色々な問題があるのだと知った。特に、ウエイトリフティングという競技は知名度が低いということと、競技人口が減少しているということがよくわかった。

様々な原因が考えられる中で、これらを解決し、今後我が国でもっとウエイトリフティングを普及・発展させられる可能性はあるのであろうか。私が、関わっているウエイトリフティング競技の将来のために、この可能性を考察してみたいと思う。

## <本研究の目的>

- ・ ウエイトリフティング競技が日本に入ってから現在まで、ウエイトリフティング競技はどのような歴史をたどったのか、現状を調べ普及していない原因を考察する。
- ・ 現在行なわれている普及活動の現状と課題を明確にする。
- ・ 以上のことを踏まえて、今後どのようにすれば我が国においてウエイトリフティング競技を普及発展させることができるのかを考察する。

## <本研究の方法>

本論文の研究方法として、文献やインターネットに公開された資料・文献の読解を軸とする。そして、関東で活躍している主要な大学5校(法政大学、日本大学、明治大学、中央大学、早稲田大学)の学生100名にとったアンケートをもとにウエイトリフティング競技の現状として活用する。

## <各章の概要>

### 第1章 日本におけるウエイトリフティングの導入と成立

1934(昭和9年)年3月、文部省体育研究所に初めてオーストリアより国際標準バーベルが輸入され、同年に開催された全国体育運動主事会議においてウエイトリフティング競技の競技方法および実際が紹介されたことがウエイトリフティング競技の我が国における始まりであった。ここから、国際交流時代が到来し、女子競技も普及していった。

### 第2章 我が国におけるウエイトリフティング競技の現状・課題

ウエイトリフティング競技の現状を知るために、競技人口の推移や競技者の意識調査を行なった。

この調査から、少子化の影響を受けて年々高校生の競技人口が減少しているにも関わらず、大学生の競技人口は徐々に増えていることがわかった。これは、まだ大学生の競技人口を増やせる余地があるという課題に繋がった。

そして、日本ウエイトリフティング協会は普及事業よりどちらかというトップアスリートの強化に重点をおいていることがわかった。しかし、競技人口が少ない為になかなか能力のある選手を確保することが出来ないのである。このことから、普及活動の見直しが課題であることがわかった。

### 第3章 ウエイトリフティング競技の問題点に対する解決策の提言

最重要課題と考えられる競技人口拡大と普及・広報活動という2点に関して解決策を考察した。

競技人口拡大に関しては、まず大学生の約3倍いる高校生をいかにして大学まで続けさせるかということがポイントであると考えた。その為に大学側が行なわなければならないことを提言した。

普及・広報活動に関しては、日本ウエイトリフティング協会が行なっている年鑑・会報の発刊のみではなく、昔に行なわれていたテレビ放映優、秀競技選手巡回指導事業、ウエイトリフティング教室などの再開を提言した。

### 結章 本研究のまとめ

今まで選手は自分の競技活動にだけ専念していれば良かったが、もはやそのような状況ではなくなっているのがウエイトリフティング界の現状である。

ウエイトリフティング競技に関わっている人たちが競技の良さ・魅力を一人でも多くの人たちに伝えていけたらウエイトリフティング界は飛躍していくと考える。誰かがやってくれるだろうという受身の態勢ではなく、自分から積極的に行動に移していくことが重要なのである。こういった活動を行なっていけばウエイトリフティング競技も普及・発展の余地はある。